

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792600062		
法人名	株式会社 JAWA		
事業所名	街かどケアホーム れんか (1)		
所在地	大阪府門真市三ツ島1537-1		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年3月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JAWAグループは、全国にグループホーム、特定施設生活介護、有料老人ホーム、居宅支援事業、訪問介護、保育園などを運営しております。当グループホームれんかでは、平成23年7月に一般社団法人から株式会社に法人名が変更となりより一層組織をあげて取り組んでおります。地域との交流を大切に、れんか祭り、夏祭り、秋祭り等、地域の方々に参加して頂き、れんかのご利用者や地域の方々とのコミュニケーションを図って頂いております。また、れんかの位置します門真市三ツ島は、のどかな田園が広がり連根畑も数多くあります。近くには緑百選に選ばれた千年の大楠の木があります。れんかのご利用者は毎朝お参りされています。私たちの「れんか」は地域の皆さまに支えられ、JAWAの理念の本、ご利用者の安定した生活を提供させて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名前の「れんか」は門真市の蓮根にちなんでいる。運営理念には「入居者の意志を尊重し、おもてなしの心(ホスピタリティ)で介護する」方向性が示されている。利用者に「自分らしい生活」を送ってもらい、自分の生活スタイルを事業所の生活でも、そのまま続けてもらう支援を基本にしている。昨年には、職員同士の結婚式が利用者に祝福されて事業所内で行われた。職員は、一期一会の精神で、その一瞬を大切に思い、人生の先輩として入居者を敬い、残りの人生を健康で、楽しく暮してもらうためのアイデアを工夫しながら、利用者への支援に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に全職員に徹底した研修の中で理念について学ぶ事により、理念に沿ったサービスを提供させて頂く事が出来る。	「ノーマライゼーションの考え方・・・ホスピタリティの精神・・・」を理念に表現し、地域密着を目指した理念となっている。職員は理念に基づき本人の希望に沿った生活支援を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階に交流室と多目的スペースが設けてあり、地域の方々にも、利用して頂ける様に図書コーナーがある。地域のイベント等の参加(地域包括より情報をもらう)	運営推進会議を中心にした町内との付き合いが行われている。事業所の行事等を通じて近隣と交流が少しずつ前進してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について研修を全職員に行なっている。地域での勉強会にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行なっている。事業所内での問題があれば、常に意見を求めてステップアップに繋げている。	地域包括推進センター、お世話になっている薬局の責任者、オーナー(地主さん)が出席し、地域との交流や防災について意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より連携を図っている。生活保護の受け入れもある為、常に担当者と連携を取っている。	公的扶助対象の利用者等の相談・報告等をはじめ、事業所の運営について情報交換する関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修時に「身体拘束」について学ぶ。また、運営理念に基づき「自分にされたら嫌な事はしないと徹底した教育を行なっている。	開設時より玄関は施錠されていない状態でケアが行われている。現場での事例を通じて、職員に身体拘束をしない支援を指導し、拘束が利用者にも与える影響についても、職員間で情報共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の研修時に「虐待防止」について学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会と連携を図り、利用者の安定した死活が営めるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各説明等には、時間を頂き、一つ一つ説明し理解して頂ける様、説明行なう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時やイベントにも声掛けさせて頂きコミュニケーションを図っている。	利用者を担当する職員が健康状態や暮らしぶりを逐次報告している。季節の行事の際には、積極的に家族に案内して参加を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の施設長だけではなく、役員も入り、職員一人一人の声も見逃す事の無い様に、意見・提案・相談の場を設けている。	法人の研修システムが確立している中で、管理者、ユニットリーダー、一般職員は連携を取りながら、個々の介護能力の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回人事考課を行い評価し、一人一人の面談も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社日から1ヶ月研修を取り入れ、全職員が同じ思いで業務やケアに携わり、プロとしての自覚と自信を持てるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所の勉強会への参加、またJAWAグループのブログの活用、全事業所との合同レクリエーションの参加を行なう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の利用者は特に、今あるアセスメントは情報としておき、本来の要望等は何なのか常に新たな発見を求め、信頼関係の中から見出す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、事業所の運営方針、理念をしっかりと伝えて行く。信頼関係を築いているような意見が頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基にサービスを提供するのでは無く、本人、家族等の意見も取り入れ介護計画作成を行なう。短期のサービスで新たな発見をし見直しを行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の状態に合わせたケアを基に無理のない、その方らしい生活の提供の場に職員も参加させて頂き信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な家族へのお便りで近況をお伝えし、少しの体調変化があれば、その都度連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までと同じ生活が出来る様に情報をしっかり取り入れる。口に出されないニーズを見落とさない様に全職員連携を図り、以前からの知人関係が絶える事の無い様にする。	本人の生活歴を情報収集して、好きな事、嫌な事を把握して、本人が望む生活スタイルを事業所の暮らしでも実現できるような支援を追及している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の居室と、共用の場所での利用を気持ち良く使用出来る様に常に工夫を怠らない。共同生活で楽しみを持って頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もイベントのお誘いや手紙等で連絡をとり、今までの関係維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を尊重し、要望等に耳を傾けている。その為にも職員間で得た情報は共有し希望に添えるサービスを提供出来るように努めている。	入居以前の情報を本人や家族から聞き取って、事業所での暮らし方の希望を把握している。把握した内容はプロフィールに記録され職員が共有するシステムができています。	症状が進み、訴えがつかみにくくなる場合に備えて、本人の以前の生活歴の情報を集め、フェースシートを充実させる事を検討してもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・モニタリングでは、一人の職員が行なうのではなく、全職員の意見を聞き、必要なサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活を基にして、本人にとって一番心地の良い場所が提供出来るように、一人一人に合ったサービスに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を重視する。難しい場合は家族や周りの意見また、居室担当者(各利用者の担当者)を中心に介護計画を立て他の職員も交えて作成している。	介護計画書の見直し時期に対応してケース会議等で職員が話し合いながら、新たな課題や支援方法を話し合っケアプランの更新を行っている。更新した計画書は家族へ説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の介護計画に基づき日々の様子等を詳しく記録している。特変等生じた場合は状態が安定するまで記録を続ける。記録は保管し本人、家族が希望されれば回覧して頂ける。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに答えるだけでなく、口に出されない見えないニーズにも対応出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要な部分は、各機関を利用し安全なその人らしい生活を送っていただける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を常に図り、少しの変化でも報告し健康狂態の把握に努める。	本人や家族が希望する医療機関による受診を優先し、必要に応じて契約医療機関で対応する診療体制を取っている。早期発見、早期対応で利用者の体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の担当看護師と密な連携を図り、利用者の細かな情報も伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院に全て任せるのではなく利用者の状態を常に把握出来ている様にする。ソーシャルワーカーとの関係も密にする。退院が出来る様に計らう。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一番に利用者、家族が思っておられる事である。認知症の重度化・著しい体力の低下等、重度化や終末期については、本人、家族の意見を聞いている。	利用者の状態が重度化した段階で、本人や家族に意向を確認して、事業所での対応方針を説明して支援内容・方法を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応を勉強会を取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携を図り年に2回の避難訓練等を行なっている。地域では、地域包括や自治会長とも密に連携を図っている。	消防署の指導により、防災設備を整備して、定期的な訓練を行っている。運営推進会議でも防災について意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳が保てる様に職員間で常に話し合い、その人らしい生活を送っていただける様に対応している。	介護記録や会議議事録の表現でも、一部でイニシアル表記をする等、個人情報保護への配慮がうかがえる。職員の言葉掛けは利用者のプライドに配慮した話し方である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で決定するのではなく、常に自己決定出来る様な場を設け、雰囲気作りを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の思いに耳を傾けている。今日したい事は、可能な限りその思いを実行する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人に合った趣向をして頂ける様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に声掛けをして、食事に対する楽しみを持って頂いている。その時の状態に合わせて一緒に食事の支度や盛り付け等して頂く。	利用者と職員と一緒に、同じ食事を食べ、職員がそれとなく介助に気を配りながらの、和やかな食事風景である。能力に応じて食事の片づけ等に利用者が参加している。ホスピタリティの精神による職員の手作りによる食事には利用者も喜んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は老人食専門の業者に依頼しており栄養やカロリー等のバランスは栄養管理士により管理している。調理、盛り付け、配膳、下膳、後片付け等、職員と一緒にされる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科利用にて、口腔内のケアから治療をして頂いている。毎食後の口腔ケアの声掛け行い、介助の必要な方は支援させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間を記録する事によりその方のリズムが把握出来る。気持ちの良い排泄が出来る様職員間で常に話し合い自立出来る様支援している。職員の都合でのオムツ対応は絶対しない。	本人の排泄習慣やリズムを尊重した排泄支援を行っている。羞恥心に配慮する等プライバシーの保護に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便の状態を把握している。その時の状態に合わせて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴出来る様にしてある為、無理な声掛けはせず本人のペースに合わせて入って頂いている。健康面で異常のない方が何日も入られない時は気持ちよく入浴出来る様に工夫する。(銭湯の利用・足浴・清拭等で清潔保持に努める)	本人の希望に沿った時間、間隔で入浴支援が行われている。あらかじめ予定を組んだりする事はしていないが、清潔保持は清拭・足浴等で補完している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく利用者の習慣を大切にしている。就寝の時間もなく、夕食後は一人一人の時間に合わせて特にゆったりした時間を過ごして頂ける様にしている。寝るれない時には側で話を聞いたり無理に寝て頂く様な事はしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局と連携を図り少しでも疑問に感じた事は直ちに解決する様努める。服薬時は必ず側で飲み込まれるまで付いて見守る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で意欲のある毎日にする為にも洗濯たたみ掃除、食事作り等を日課にして頂いている。買い物等と一緒に自身で決めて購入されたり、外食で好きな物を召し上がって頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声に出されないニーズにもお応えする様に努める、普段の何気ない会話や仕草からも今思っている事、感じている事にもお応えする。行動の制限は決してせず、自身の決定で行動して頂く様支援する為にも、地域と連携を図る。	個人個人の意向を優先している為、外出支援は一人または二人の利用者でいく場合が多いようである。本人の趣味である釣りや、カラオケ、外食、銭湯等の外出同行も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員に預かり金台帳を作り管理している。お金の管理が出来る方は小額のみ持って頂くが、収支は把握させて頂いている。ホーム内の自動販売機で購入されたり、お出掛けの際に買い物される。権利擁護も必要に応じて利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近況報告を交え月1回家族に手紙をおくっている。必要に応じては、その都度連絡をいれたりメールにて報告する。利用者から電話される時は事務所の電話を使用して頂いている。また、本人所有の携帯電話で家族とのやりとりをされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備し季節感のある空間作りを心かけている。リビングの大きなテラスからは日中光が入り辺り一面に田園風景が広がっている。ホームの畑では利用者と一緒に野菜作りを行なっている。	敷地が広く、全体的にゆったりとした設計の建物である。居間兼食堂が大変に広く、職員への清掃負担が推察される。駐車場も広く、散歩にちょうど良い。岩盤浴の設備が隣接され利用されている。広い玄関にソファあり利用者が良く利用して寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろいろなソファを置いたり、マッサージ機、フットマッサージ等も設置し自身で操作して好きな時に利用して頂いている。交流室では図書コーナーを設け、卓球・ピアノ等好きな時に使用いた頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の居室である為、使い慣れた家具を持参して頂ける様に説明する。家族の宿泊の対応も出来ている。	利用者の今までの生活スタイルが継続できるように、使い慣れた家具を持ち込んで、落ち着いて過せる部屋作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた掲示、各箇所に設置した手摺り、階段も緩やかな段差になっている。エレベーターの表示も大きく見やすい文字である為、一人でも使用しやすい。		